

令和元年第3回北海道議会定例会〔予算特別委員会・知事総括質疑〕開催状況

開催年月日 令和元年10月2日（水）
 質問者 共産党 真下 紀子 委員
 担当部課 建設部土木局道路課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>三 旧開発道路の見直しについて</p> <p>(一) 旧開発道路の計画変更と事業費増大の受け止めについて</p> <p>各部審査を踏まえ、まず、旧開発道路の見直しについてです。美唄富良野線、名寄遠別線は、計画の見直しが繰り返され、名寄遠別線では、今後更に期間延長と事業費の増額まで予定していることがわかりました。総事業費は381億円へと、211億円もの増額となり、完成も計画から30年以上先送りされ、B/Cも低下しています。知事は建設部からどのような説明を受け、どう受け止めたのか伺います。</p> <p>(二) 事業見直し効果について</p> <p>それで納得しては、大胆な転換はできません。これまでの開発道路の見直しの経過と、その効果について、知事に改めて伺います。</p> <p>(三) 完成道路の通行状況について</p> <p>10年前でこれだけの節税効果になります。開発工事というのは、難工事であるがゆえに、完成した富良野上川線は通行止めが常態化しています。完成から6年の間に、どれくらいの期間、通行ができたのか。その優位性に知事は疑問を持つことはないのか、併せて伺います。</p>	<p>○知事 鈴木 直道</p> <p>美唄富良野線などについてであります。美唄富良野線と名寄遠別線は、道州制特区推進法に基づきまして、平成22年度から、国から移譲され、整備を進めてまいりましたが、その後の調査によりまして、新たな地すべりの危険箇所等が判明をし、ルート変更やトンネル・橋梁などの整備が必要となったため、事業計画の変更について政策評価委員会に諮り、変更の上、事業を継続することが妥当との意見をいただいたところであります。</p> <p>私としては、2つの路線とも、物流や観光に必要なネットワークの形成、医療機関へのアクセス向上、災害時における代替道路としての機能など、事業の必要性は変わっていないことから、コストの縮減にも十分配慮しながら、今後とも、早期の完成に努めてまいる考えであります。</p> <p>○知事 鈴木 直道</p> <p>開発道路の見直しの経過などについてであります。平成15年度および16年度に、国が行った事業再評価において、事業中止とされた開発道路は、道道静内中札内線など10路線で、事業計画を見直したものは、道道富良野上川線など3路線でありました。</p> <p>これらの事業中止及び見直しによる、事業費の減額でございますが、合計で約2,274億円、うち道負担分につきましては、約455億円であります。</p> <p>○知事 鈴木 直道</p> <p>富良野上川線についてでございます。平成22年度に国から移譲を受けた区間は、平成24年度に完成をし、供用を開始いたしました。一部区間で地すべりの兆候があったことから通行止めを行い、現在も法面の変位や、地下水位の調査等を行っております。</p> <p>数年間の調査によりまして、9月から10月にかけては、法面等の変位が小さいということが確認できたため、一般車両の通行が可能と判断をし、秋の行楽シーズンにもあたることから、平成29年度よりこの期間の通行止めを解除しているところであります。</p> <p>ご質問にございました、6年間で通行できたのは、延長約13.2kmのうち、5.4kmについては、約3ヶ月となっておりますが、残りの7.8kmについては、冬期間通行止め期間などを除きまして、通行が可能としてきたところであります。</p> <p>当該道路は、大雪山麓の観光地を結び、地域の観光振興に寄与する重要な路線であることから、道といたしましては、引き続き、通行の安全確保に努めてまいる考えであります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 計画の見直しについて</p> <p>重要な路線なのに、6年間で3ヶ月しか通行できていないわけです。特に、名寄遠別線、これからなんですけれども、大変険しい工事ですので、知事ご自身が、自分の目で確認されて、それで判断されたらいかがかと思うんですけども、いかがですか。</p> <p>(指摘)</p> <p>30年以上たっても完成していないわけですから、早期完成といっても、見通しが無いというふうに指摘を申し上げておきます。</p>	<p>○知事 鈴木 直道</p> <p>名寄遠別線についてでございますけれども、留萌北部と上川北部の両地域における、医療機関へのアクセス向上や、物流の効率化、そして、災害による孤立化の解消などを果たす路線となっているところでございます。こうした地域の重要な役割を担う路線については、地元から強い要望もあり、引き続き、早期の完成に向けて事業を進めていく考えであります。</p>